

足利市民文化 財団 報

第 37 号
令和元年9月1日

発行

公益財団法人 足利市民文化財団
栃木県足利市本城3-2145
(足利市教育委員会事務局文化課内)
電話 0284-20-2229



足利薪能

足利市民 文化財団とは

足利の持つ自然的・歴史的
環境や足利に関連する芸術
品・文化財等の保護、また芸
術・文化の振興、さらに文化
施設の整備の促進などを目的
に、昭和五十七年一月に発足
し、平成二十五年四月に新公
益法人制度に基づく、公益財
団法人の認定を受けました。

この間、事業を支える基盤
づくりとして、募金活動を進
めてまいりました。財団では、
この預金利子を事業資金とし
て活用しております。

今後とも、皆様のご支援、
ご協力をお願い申し上げます。

平成30年度

事業報告 及び 決算諸表承認

令和元年 6 月 21 日(金)に開催されました令和元年度第 1 回評議員会において
平成 30 年度の事業報告及び決算が承認されました。

事業報告

▽文化講演会の開催事業

芸術・文化活動に対する関心を高め、より高い芸術文化の創造を目指すことから、足利文化協会と共催により、文化講演会を開催しました。

期 日 平成三十一年一月十二日(土)

会 場 足利市民会館小ホール

講 師 足利オペラ・リリカ音楽監督 大隅智佳子氏

演 題 「女性から見た作曲家ヴェルディ」

ミニコンサート

ヴェルディ作曲「運命の力」より「神よ、平和を与えたまえ」

入場者 八十人



文化講演会

▽足利市内の文化財紹介・啓発事業

市内の文化財の周知や認識を深め、文化財の保護・活用を推進を図るため、文化財の写真パネルを地区文化祭等の市内イベント時に貸出しました。

・写真パネル貸出

各地区文化祭等 七十八枚

・写真貸出

出版社等

九件

▽美術品・文化財の収集、展示事業

足利にゆかりのある、貴重な美術品の保存及び保護を目的とした収集を行うとともに、所蔵している美術品、文化財等についての理解と認識を深めてもらうため、所蔵品展を開催しました。



所蔵品展チラシ

・所蔵品展

「足利の草雲、世界の理一郎」

(田崎草雲、川島理一郎、大山魯牛、牧島如鳩、長谷川沼田居ほか作品)

期 間 平成三十一年二月二十六日(土)～三月十一日(月・祝)

会 場 足利市立美術館

展示数 三十点

入場者 千四百五十一人

▽地域の芸術・文化活動、文化財保護、自然環境保全活動を行う団体等に対する助成事業

左記の事業に協力をしました。

○足利新能

開催日 平成三十一年九月八日(土)

主催 足利能(新能)実行委員会

会 場 足利市民会館大ホール

期 間 平成三十一年九月三十日(日)～十月二十五日(日)

主 催 足利市民文化祭運営協議会

会 場 足利市民会館 他

期 間 平成三十一年五月～十一月

主 催 各地区文化祭実行委員会等

会 場 足利市民会館 他

期 間 平成三十一年五月～十一月

主 催 各地区文化祭実行委員会等

会 場 織姫公民館 他

開 催 十二地区

○各種団体への助成
市内の芸術・文化団体の自主的活動等を支援するため、十八団体に対し、文化活動の費用の一部を助成しました。

○伝統芸能保存活動への支援
・平成三十年度八木節後継者育成事業

期 間 平成三十一年六月一日(金)～九月十四日(金)

主 催 足利八木宿八木節保存会

期 間 平成三十一年四月一日～三月三十一日

主 催 名草源氏ホタル保存会

期 間 平成三十一年三月三十一日

主 催 名草下町養殖池、名草下町自治会館

期 間 平成三十一年四月一日～三月三十一日

主 催 名草下町自治会館

期 間 平成三十一年三月三十一日

主 催 名草観光協会カタクリ部会

期 間 平成三十一年三月三十一日

主 催 名草下町自治会館

期 間 平成三十一年三月三十一日

主 催 名草下町自治会館

期 間 平成三十一年三月三十一日

主 催 名草下町自治会館

期 間 平成三十一年三月三十一日

主 催 名草下町自治会館

期 間 平成三十一年三月三十一日

主 催 名草下町自治会館

期 間 平成三十一年三月三十一日

主 催 名草下町自治会館

期 間 平成三十一年三月三十一日

主 催 名草下町自治会館



▽芸術・文化に関する
情報提供

○足利市民文化財団報第三十六
号の発行

市民と財団の共通の広場として、足利市民文化財団報を発行し、市内の全世帯に配布しました。

発行 平成三十年九月一日
部数 五万八千五百七十部
○インターネットの活用

ホームページで財団の事業のPRを行いました。



市民文化祭「民謡・民舞」



令和元年度

事業予定

本財団の設立趣旨に沿った芸術品・文化財等の保護、芸術・文化活動振興事業などに、資産からの運用益金を充てて事業を実施します。
今年度の主な事業は次のとおりです。

○文化講演会の開催事業

・令和二年一月中旬頃予定

○文化財紹介・啓発事業

・文化財写真パネルの作製・貸出
・文化財の案内板、標識等の設置・管理

○美術品・文化財の収集、展示、貸出事業

・所蔵品展の開催

○地域の芸術・文化活動、文化財保護、自然環境保全活動を行う団体等に対する助成・支援事業

・市民文化祭、市民文化祭優秀作品展への助成
・地区文化祭への助成
・各種団体への助成

・八木節後継者育成事業への助成
・自然的、歴史的環境保護事業への助成

○芸術・文化に関する情報提供

・文化財団報の発行
・インターネット等の活用

寄付のお願い

○寄付にご協力を

足利のもつ自然的・歴史的環境や関連する芸術品・文化財等の保護、また芸術・文化活動の振興等の諸事業を実施していくため、「足利市文化振興事業寄付金」にご協力いただける方は、事務局までご連絡をお願い申し上げます。

事務局・・ ☎二〇一三二二九

▽皆様のご協力に
感謝申し上げます。

○財団募金箱での寄付も可能です。

市民会館、市民プラザなどの施設に設置してある募金箱に、毎年、皆様から寄付をいただいております。みなさまのご協力に感謝申し上げます。



基本財産及び特定資産の増減及びその残高

文化財団の基本財産及び特定資産の増減及びその残高は次のとおりです。

(単位：円)

科 目	平成 29 年度末残高	平成30年度増減額	平成 30 年度末残高
基 本 財 産			
投資有価証券	499,953,000	0	499,953,000
定 期 預 金	30,487,000	0	30,487,000
美 術 品	117,221,890	0	117,221,890
小 計	647,661,890	0	647,661,890
特 定 資 産			
投資有価証券	439,514,000	0	439,514,000
定 期 預 金	116,150,984	451,138	116,602,122
小 計	555,664,984	451,138	556,116,122
合 計	1,203,326,874	451,138	1,203,778,012

所蔵品種別一覧

文化財団では、貴重な文化財等の足利市外への散逸を防ぐため、本市にゆかりのある貴重な美術品、文化財等の保護事業を進めています。7月末現在の文化財団の所蔵品は、下表のとおりです。

種 別	員数	取得金額 (円)
古 文 書 等	2,219	7,459,890
刀剣・甲冑・銃	7	30,000,000
和 鏡 等	43	7,500,000
織 物 等	220	1,700,000
絵 画 等	78	70,562,000
計	2,567	117,221,890

芸術・文化活動団体等の 事業に助成します

芸術、文化の振興に寄与すると認められる団体に対し、その事業に必要な費用の一部を審査のうえ、助成します。

対象団体

次の要件にすべて該当する団体

- 足利市内に住所又は活動の本拠を有する団体
- 一定の活動実績があり、広く市民に事業を公開する団体
- 団体規約等を有し、代表者が明らかな団体

対象事業

- 文化活動の成果発表事業（展覧会、発表会）
- 文化活動研修事業（講演会、講座など）
- 自然・文化財保護活動事業
- *営利、政治及び宗教活動を目的とする事業や参加者を会員等に限定する事業は対象となりません。

申請方法

所定の助成金申請書を9月30日(月)までに足利市民文化財団事務局に提出してください。

(申請書は財団事務局でお配りしているほか、財団ホームページからダウンロードできます。)

問合せ先

足利市民文化財団事務局 ☎ 20-2229

所蔵品展

- 開 期 令和2年
1月25日(土)～2月9日(日)
- 会 場 市立美術館
- 展示作品 財団所蔵品の一部を展示

文化財写真の貸出

本財団では、市民の皆様に文化財の理解と認識を深めてもらうため、写真パネルの貸出をしています。地区文化祭等で展示を希望される方は、本財団事務局まで事前にご連絡をお願いいたします。

《問合せ先 ☎20-2229》

編集後記

本年は、足利義兼公没後820年にあたります。足利義兼は、室町幕府初代將軍・足利尊氏の6代前の先祖で、源姓足利氏の二代目当主です。義兼は、源頼朝に倣い、治承・寿永の乱(源平合戦)、奥州合戦に従軍し、鎌倉幕府の創建に貢献し、正治元(1199)年3月8日に樺崎寺で亡くなったと伝えられています。また、「大日様」として親しまれている饒阿寺は、足利家の館跡で、義兼が館内に持仏堂を設けたことに始まります。

表紙の写真は、饒阿寺経堂の北側に設けられた特設舞台での足利薪能の様子です。能は、室町時代、3代將軍足利義満の庇護のもとに観阿弥・世阿弥によって大成された日本の伝統芸能です。足利薪能は、足利家の館跡・氏寺の中で、経堂を背景に篝火を焚き、室町時代さながらの雰囲気の中で上演されます。

今年は、35回を記念して、9月7日(土)に足利薪能、8日(日)に足利新狂言の二夜連続の開催となります。また、薪能にあわせて9月1日(日)から9日(月)まで、松村記念館において、「橋岡一路能面展」が開催されます。